



平成基礎科学財団

第1回「折戸周治賞」・「戸塚洋二賞」
＜表彰式＞

2010年3月21日(日)15:00 於： 東京大学小柴ホール

ごあいさつ

平成基礎科学財団理事長
東京大学特別栄誉教授
小柴 昌俊

平成基礎科学財団は「基礎科学に関する理解の増進を図るとともに、基礎科学に関する研究・教育活動を奨励し、もってわが国の基礎科学の振興に寄与すること」を目的として2003年に設立されました。

このたび、当財団はこの趣旨に則して「折戸周治賞」と「戸塚洋二賞」を創設し、基礎科学である、衝突型加速器による素粒子研究あるいはそのための加速器研究、ならびに、ニュートリノ研究及び非加速器素粒子研究、において実験または理論の優れた研究業績を挙げた研究者に対し顕彰を行うこととしました。

・分野

折戸周治賞 : ビーム衝突型加速器による実験あるいは関連する理論研究、ならびに衝突型加速器の研究および開発

戸塚洋二賞 : ニュートリノ実験または非加速器素粒子実験、あるいは関連する理論研究

・対象

我が国の研究者、あるいは我が国の大学、研究機関に所属する外国の研究者。

・表彰

- | | | |
|-----------|-----------------|----|
| (1) 折戸周治賞 | (表彰楯及び顕彰金100万円) | 1件 |
| (2) 戸塚洋二賞 | (表彰楯及び顕彰金100万円) | 1件 |

・選考委員

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 山田 作衛 | (東京大学名誉教授、高エネルギー加速器研究機構特別教授) |
| 荒船 次郎 | (平成基礎科学財団評議員、東京大学名誉教授) |
| 生出 勝宣 | (高エネルギー加速器研究機構加速器施設長) |
| 川合 光 | (京都大学理学部教授、理化学研究所主任研究員) |
| 駒宮 幸男 | (東京大学理学部教授、東京大学素粒子物理国際研究センター長) |
| 鈴木 厚人 | (平成基礎科学財団理事、高エネルギー加速器研究機構長) |

「折戸周治賞」

受賞者

高崎 史彦 (高エネルギー加速器研究機構・理事)

山内 正則 (高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所・教授)

受賞対象

「B 中間子における CP 非保存の発見」

授賞理由

KEK-B における Belle 実験は大量の B 中間子を生成し、その崩壊の詳細な研究を行って、B 中間子系で CP 保存則の破れていることを発見した。CP 対称性の破れは、中性 K 中間子で発見されて以来、長年の素粒子物理の謎であったが、B 中間子でも破れていることが新たに分かり、さらに深い理解に道が開かれた。この研究は、中性 B 中間子の崩壊過程を用いて小林・益川理論の正しさを裏付け、さらに荷電 B 中間を含むいろいろな崩壊過程での CP 非保存の研究を続け、より系統的に CP 非保存現象を精査する可能性を示した。

Belle 実験は大きな国際共同実験であり、これは多くの研究者の協力でなされた成果であるが、高崎氏と山内氏はそれを当初から主導して、これらの多くの成果を上げるうえで、中心的な役割を果たした。

「戸塚洋二賞」

受賞者

梶田 隆章 (東京大学宇宙線研究所教授・所長)

受賞対象

「大気ニュートリノ振動の発見」

授賞理由

カミオカンデ実験により存在を発見・示唆された大気ニュートリノ異常現象は、スーパーカミオカンデ実験によって、存在が確立すると共に異常がニュートリノ振動によるものであるという解釈が確立した。大気で発生した電子ニュートリノ、ミューニュートリノそれぞれの強度、角度分布、エネルギーが高精度、高信頼度で観測された結果である。この意味で、ニュートリノ質量の存在と、弱い相互作用のレプトン混合の存在が、スーパーカミオカンデ実験によって、世界で初めて発見された。スーパーカミオカンデ実験は多くの研究者からなる国際共同実験であるが、この発見を成し遂げる上で、梶田隆章氏は故戸塚洋二氏と共に指導的・中心的な役割を果たした。

★お願い

1. 撮影は報道関係者のみとし、一般の方の撮影を禁止します。
2. 録音は一切禁止します。
3. 携帯電話の電源はお切りください。